

【英語】 < 中学校 第1学年 >

1 結果のポイント

「聞くこと」について、短い英文を聞いて、その英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力や、自然な口調で話された会話や英文を聞いて、その場面や話題等、大まかな内容や要点を聞き取る力をみる問題では、正答率がほぼ90%を上回っている。

英語による問いかけから相手が尋ねたい内容を正しく理解して、適切に応答する力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。

「読むこと」について、具体的な内容を正しく読み取ったり、大まかな内容や大切な部分を読み取ったりする力、場面に応じた適切な英語表現の使い方を理解する力をみる問題では、正答率が80%を上回っているものが多い。

文章や会話の流れを理解して、状況に応じて適切に応答する表現を選択する力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものが複数ある。

「書くこと」について、与えられた場面や英文を手がかりに、内容が正しく伝わるように英文を書く力をみる問題では、正答率が75%を上回っている。一つの話題について、読み手を意識しながら伝える内容を整理してまとまりのある英文を書く力をみる問題については、正答率が70%を上回った。

英文の構造を理解して正しい語順で書く力をみる問題では正答率が60%を下回っているものが依然としてある。

2 結果の分析

(1) 問いかけに対して適切に応答する力をみる問題の例

< 問題 > ① の1 (テープ問題)

これから放送するように英語で話しかけられたとき、どのように答えますか。応答として最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。話しかけは2回ずつ放送します。

1 (放送文) I like science. Do you like it?

ア He likes English. イ No, it is not. ウ Yes, we are. エ Yes, I do.

< 結果 > 正答率 59.4% (正答...エ)

< 分析 >

この設問は、英語で問いかけられている内容を正しく聞き取り、適切に応答する力をみる問題である。3問中2問が正答率60%を下回っており、昨年度までに引き続き課題と言える。

誤答としてはイが多く、Do you ~?に対してYes-Noを用いて応答するということは理解できているが、一般動詞とbe動詞を正しく使い分けて応答する力の定着が弱いと考えられる。

また、言語形式によらないで応答することについては、①の3の正答率に、同様の力をみる昨年度の設問と比べて改善が見られるものの十分とは言えない。Do you know his name?が「彼の名前を知っていますか。」というだけでなく、「彼の名前を教えてください。」という話し手の意向が含まれることを理解することが大切である。今後は、文法事項を正しく活用しながら確実に応答する力とともに、相手の意向を理解して言語形式によらないで適切に応答する力を一層高める指導が必要である。

(2) 会話の流れを理解する力をみる問題の例

< 問題 > ⑥ の3

3 次の英文は、スティーブ(Steve)とルミ(Rumi)の会話です。下の に入る英文はどこに入れるのが適切ですか。 [play it with him every day]

Steve : Rumi, what are the students doing over there?

Rumi : They are playing shogi. Many people play it in Japan.

(ア)

Steve : I see. Do you play it?

(イ)

Rumi : Yes, I do. My father plays it, too.

(ウ)

Steve : Good. Please teach it to me.

(エ)

Rumi : OK.

< 結果 > 正答率 46.8% (正答...ウ)

<分析>

この設問は、文章や会話の流れを理解して、前後関係から適切な表現を選択することができる力をみる問題である。

会話の流れから it や him が示すものを理解して I play it with him every day. を適切な場所に当てはめて会話を完成させるものである。誤答はアとイが多く、it が shogi を指していることは理解できたが、him は my father を言い換えられたものであることが理解できなかったと考えられる。第1学年の段階として、代名詞については、前出の名詞の繰り返しを避け、会話をスムーズにつなげる働きがあることに気付かせ、話の流れを理解する力を付けるためにも習熟を図りたい。

6の2については、()に入る表現は、Do you like it?だけでなく、2文後にある Let's play soccer and use it. とつなげて理解する必要があり、複数の英文に着目することが大切である。

文章を読むときには、具体的な名詞を代名詞などの簡易表現へ言い換えて対応させていく発想や文と文のつながりを意識しながら読み、書き手の意向を理解することができる力を高める必要がある。その際、代名詞が示している中身や会話の流れをとらえることができる指導を丁寧に行うことが大切である。

(3) まとまりのある英文を書く力をみる問題の例

<問題> 8

アメリカでお世話になるホームステイ先の家族に、似顔絵付きの簡単な自己紹介カードを送ることにしました。自分の好きなこと(もの)や得意なことについて、3文以上の英語で自己紹介文を書きなさい。ただし、最初の文は My name is ... を書き出しとして始めなさい。なお、My name is で始まる文も1文として数えます。

<メモらん>を自由に活用し、必要に応じて自己紹介する内容等を整理してから書いてもかまいません。自己紹介カードは省略

<結果> 正答率 72.6% (正答...略)

<分析>

この設問は、まとまりのある英文を書く力をみる問題である。自分の好きなことや得意なことについて、書くべき内容を自分で考えて書くことが求められる。

ここ3年間は継続的に改善傾向がみられ、本年度は70%以上の正答率を得られた。

生徒の解答には、趣味やスポーツ等の内容が多い。I like tennis. I play it every day. のように1つの話題についてつなげて書いたり、I like music. I play the piano. のように好きなものについて具体的に書いたり I like baseball. I like math. のように好きなことを並べて書いたりしている英文が多く見られ、第1学年の段階として意欲的に表現しようとする姿の向上が感じられる。

一方、10の2の a picture of my dog のように日本語と異なる語順(前置詞による後置修飾)や、10の3のようなwh-疑問文の文構造の理解は十分とは言えない。

今後は、上記のような基本的な英文の語順や文構造についての指導について第1学年から継続して徹底を図り、第2学年における、自分の考えや気持ち、事実等について適切な表現を選択して正しく書くことの指導へとつなげていきたい。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

小学校外国語活動を踏まえた中学校英語への導入を!

- ・校区内の小学校における外国語活動の実施状況を把握する。例えば、授業参観を行い、英語を用いて自分の思いを伝え合う児童の姿を観察したり、小学校の担当者から、指導計画や児童が慣れ親しんできた語彙や英語表現の一覧等を引き継いだりする。
- ・小学校段階で養われた「コミュニケーション能力の素地」(積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、言語や文化についての体験的理解、英語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ)を踏まえ、小学校で扱ったことのある題材や語彙を活用するなど第1学年導入期の指導計画を改善する。その際、小学校で行われてきた聞いたり話したりする活動と、発音と綴りを関連付ける読んだり書いたりする学習とがスムーズに実施されるよう工夫する。

付けたい力を具体的にした単元指導構想を!

- ・第1学年から第3学年までを見通した中で、第1学年で定着を図る必要のある指導事項の具体的な内容や言語材料を明らかにする。

<指導事項を具体化する例>

- * 聞くこと(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること

Where, When, What time 等の疑問詞を含んだ質問を正しく聞き取るとともに、相手の求めている内容に適切に答えること

- * 書くこと(ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと

友人紹介で、好きなこと、得意なこと等について、内容を整理して正しい語順や動詞の変化に留意しながら書くこと

語彙や文法事項の定着を図る学習を指導過程に位置付ける！

- ・単元において付けたい力が身に付くよう、繰り返し練習したり、関連付けて整理したりする学習を単元及び各単位時間の過程に位置付ける。 例
- < 単元の指導過程に位置付ける例 >
 - * 新出語彙をまとめて練習したりする活動や、新出文法事項を既習文法事項と関連付けて整理して活用したりする活動を単元の半ばで行う。(例) 疑問詞、代名詞をまとめる時間等
 - * 単元の終末に行う言語活動に向けて、生徒の課題やつまずきに応じて生徒の表現力を高める集中的な練習を行う。(例) 原稿を見ないで発表できるようにフレームだけ見て話す等
- < 単位時間の帯活動として位置付ける例 >
 - * 新出語彙や文法事項への習熟を目指す個々による集中練習
 - * 新出語彙や文法事項を用いて自分や友人のこと等を伝え合うコミュニケーション活動
 - * 家庭学習で練習した音読や書いた英文を交流する活動等

(2) 指導方法の工夫改善

具体的な場面設定の中で、繰り返し習熟を図る指導の充実を！

- ・言語形式による応答が確実にできるよう、yes-no疑問文やwh-疑問文とその応答の仕方について、正しく理解し習熟を図る。特にwh-疑問文については、疑問詞の意味や働きを正しく理解するとともに、繰り返し使用し、疑問文の際の文構造等について一人一人に習熟を図る。
 - ・言語形式によらない応答の仕方についても、相手が何を伝えようとしているのかを考え、適切に応じることで意思疎通を図る活動を通して体験的に習熟を図る。
- < 言語形式によらない応答例 >
- * I don't have any tissues. Do you have any? に対して、Here. Use this.と応じるなど、相手の意向を踏まえた適切な表現を紹介する。

代名詞や会話等の流れに着目し、文脈や話し手の意向を理解する指導の充実を！

- ・文脈や話し手の意向を把握することができるよう、文の前後関係や代名詞に着目した読み取りを大切にす。特に代名詞がある場合は、直前やその前の文に手がかりがないかなど、つながりを図式化してみるなど前後関係を意識して読む指導を行う。
 - ・読み取ったことを代名詞を使って話したり、会話したことを代名詞に言い換えて書きまとめたりするなど、実際の表現活動で活用することを通じて習得を図る指導を行う。
- < 代名詞を用いて書きまとめる例 >
- * 友だち(B:男子)に好きなスポーツについてインタビューする活動で、
A: I like soccer. Do you like soccer? B: No, I don't.
A: What sport do you like? B: I like baseball.
と会話した後に、2度目以降使用する際は soccer を it、B を he に言い換えることを確認した上で、I like soccer. But B doesn't like it. He likes baseball. と書きまとめる。

伝えたい内容を正しく伝えるための「1語」「1文」「2、3文」の指導を！

- ・まとまりのある内容を話すことの指導を工夫する。例えば、Do you like music?という問いに対して、質問の概要を理解して、Yes.と1語で応答する姿から、言語形式を意識してYes, I do.と応答する姿へ、次にYes, I do, I like piano. と具体的に説明する2文目、さらに、I play it every day. と代名詞を用い、つなげて説明する3文目を加えて応答する姿へと高めていく。このような指導を書くことにおいても行う。 例

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

「書くこと」について家庭学習と授業を効果的に関連付けた指導の充実を！

- ・家庭での単語の学習を効果的にするために、授業中に発音と綴りを関連付けて指導し、家庭においても意識的に音読練習や筆記練習ができるようにする。
 - ・授業で学習した英文を使ってさまざまなトピックについて文を書く学習を継続的に行うことができるよう、家庭学習の方法を具体的に指導する。
- < 家庭学習例 >
- * 今日の授業で学習した語彙や表現をノートに10回書こう。本文を10回読もう。
 - * 今日の授業で学習した語彙や表現を使って、自分や家族のことを5文書こう。
 - ・生徒が書いた英文に励ましの朱書きを入れたり、授業の始めにペア音読で上達を認め合う時間を位置付けたりして学習意欲の向上を図る。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16~H18)及び授業改善推進プラン(H19・H20)」を参照する。(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)

例 : 平成19年度 授業改善推進プラン(英語力向上アクションプラン) 第1学年
豊かな自己表現につながる語彙の充実と文構造の定着を図る指導に取り組んだ実践
例 : 平成19年度 授業改善推進プラン(英語力向上アクションプラン) 第1学年
まとまりある英文を書く力を付けるために単元構成、授業展開の改善に取り組んだ実践
関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、P89 意識調査結果を参照する。

中学校第1学年英語の授業において、生徒が楽しいと感じるのはどんなときか。
第1位: 自分で単語や本文を音読することができたとき
第2位: 先生から説明を聞いて英文の意味やその使い方が分かったとき